

水陸萬頃

第22号

奥州農業改良普及センター TEL：0197-35-6741 FAX：0197-35-6303
 いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



※水陸萬頃とは

「続日本書記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。

頑張る若手を紹介します！

金ヶ崎町でピーマンを栽培中！ 阿部光平さん 

阿部光平さんは、「農業を始めたい」、「自分で野菜を育ててみたい」という思いから会社を退職し、農業の道へ進みました。家庭菜園を始めてから4年の経験を経て、令和5年に本格的に就農。現在は複数の野菜を組み合わせた周年栽培に取り組み、春は施設アスパラガス(2a)、夏は施設ピーマン(15a)と露地ピーマン(5a)、冬には施設内で小松菜やほうれんそうを栽培しています。

就農初年度から「環境モニタリング機器」を導入し、日射量に応じたかん水調整やハウスサイドの開閉による温湿度管理など、データに基づく栽培管理を積極的に実践。ピーマンに適した環境づくりに力を注いでいます。また、同じく環境モニタリング装置を活用している若手ピーマン生産者の勉強会グループにも参加し、互いにはほ場を訪問して管理技術や生育状況を共有。さらに、環境データや収量データを比較・分析し、意見交換を通じて技術の向上に励んでいます。

就農初年度は、高温や集中豪雨により、思うような成果が得られませんでした。令和6年は、前年の反省を活かした改善に取り組み、施設ピーマンで管内トップクラスの単収を達成しました。特に注力したのが、近年の異常気象(高温)への対応です。遮光・遮熱塗布剤や遮熱ネットなどの資材を導入し、試験区を設けて複数資材を比較検討するなど、費用対効果を意識した資材選定により、効率的な農業経営を追求しています。

令和7年には、JA岩手ふるさと園芸部会の金ヶ崎支部長に就任。地域の園芸作物生産をけん引する存在として活躍しています。高齢化による生産者の減少が進む中、「少しでも地域に貢献したい」との思いを胸に、品質を最優先にしながら規模の拡大にも取り組んでいます。日々コツコツとデータを蓄積し、着実に改善を重ねる阿部さん。今後の更なる活躍が期待されます。



7～9月の作物ワンポイントアドバイス（高温対策）

直近の1か月予報（7月3日仙台管区気象台発表）によると、8月までの気温は高い予報であり、本年も高温による農作物等への影響が懸念されます。今後の気象情報に注意し、被害の未然防止や軽減を図るための対策を適切に行いましょう。

水稲〔登熟を低下させない水管理・適期刈取り〕

- ★登熟前半に高温（日中 30℃以上、夜間 23℃以上）が続く場合は、水の入替えをこまめに行うとともに、夜間かんがいを徹底しましょう。
- ★高温による刈取り時期の前進化に備え、早めに刈取り準備を進めましょう。

大豆〔開花期以降の水管理〕

- ★高温乾燥が続く場合は、開花期以降に明渠やうね間を利用したかん水を検討しましょう。かん水する場合は朝夕の涼しい時間帯に実施し、滞水させないように注意しましょう。

野菜〔害虫対策・ハウスの高温対策〕

- ★アザミウマ類やオオタバコガなどの害虫が多発傾向にあります。ほ場をよく観察し、防除効果の高い発生初期のタイミングで薬剤散布を行いましょう。
- ★施設では、遮熱・遮光、換気等を組み合わせた高温対策を行い、草勢維持に努めましょう。

果樹〔日焼け対策・適期収穫〕

- ★一度に過度な葉摘み（摘葉）は避けましょう。急激な温度変化を避けるため、日光の当たりやすい部分の葉摘み・玉回しは、極力、果実温度が上昇する午後に作業しましょう。
- ★収穫期には、着色を待ちすぎず、食味や果肉の硬さを重視して収穫しましょう。

花き〔りんどうの高温期の薬害回避〕

- ★高温年は、害虫の発生量が多くなる傾向があります。高温期の農薬散布を避け、涼しい時間帯に葉裏や頂花周辺にたっぷり散布しましょう。
- ★定植ほ場では、生育量の確保に向け、ホソハマキ被害やアブラムシによるウイルス病対策として、丁寧に農薬を散布しましょう。

畜産〔畜舎の暑熱対策：「遮熱」「換気」「乾物摂取量の維持」〕

- ★遮熱：舎内に直射日光を絶対に入れないよう、寒冷紗の設置などを行いましょう。
- ★換気：換気扇は夜間も止めずに回すことで、牛の体温をしっかりと下げることができます。
- ★乾物摂取量の維持：綺麗な水の給与、餌寄せ、粗飼料の細断などで食欲を維持しましょう。

熱中症対策を万全にしましょう！

令和7年6月1日に改正労働安全衛生規則が施行され、職場における熱中症対策が義務化されました。

労働者を雇用する事業者は熱中症があった際に対応できるよう「早期発見のための体制整備」と「重篤化を防止するための措置の実施手順の作成」を行い、その内容を「関係作業者に周知」する必要があります。

具体的な対応としては、必要事項を記載した「張り紙」を事務所等に掲示することが有効となりますので、農林水産省のWEBサイト等を参考に対策を行いましょう。

熱中症 対策

- ①水分補給：作業中はこまめに水を飲み、塩分補給も心がけましょう。
- ②作業時間：日中の暑い時間を避け、涼しい時間帯に作業を行いましょう。
- ③適切な服装：通気性の良い服装や帽子の着用で熱を防ぎましょう。
- ④休憩の確保：こまめに休憩を取り、体を冷ますことを忘れずに。



農業への関わり方は多様!女性農業者交流会を開催しました!



胆江地方農林業振興協議会では、6月27日に胆江地方女性農業者交流会を開催しました。

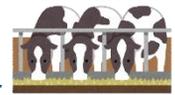
参加者7名が、奥州市江刺でりんごを中心とした果樹を栽培している(株)菅野農園で農福連携を見学したり、多機能型事業所(A型、B型)を運営している菅野聖子(かんのちかこ)氏の活動についてお話を聞きました。

菅野氏は結婚後、夫と共に果樹農家として営農する傍ら、農大生等の研修生を数多く受入れてきました。たくさんの人に出会えたことを原動力に活動しています。

参加者からは「作業者が元気に働いていて素敵だった」「交流会では農作業時のトイレの対応などを話せて共感できた」などの感想がありました。



自給飼料増産研修会が開催されました



6月30日、JA岩手ふるさと本店において胆江地方農林業振興協議会主催の「自給飼料増産研修会」が開催されました。研修会では、近年の夏の高温による牧草の「夏枯れ」の状況や自給粗飼料の安定的な確保に向けた水田活用、暖地型牧草の栽培方法等について説明が行われました。

講師の県農業普及技術課農業革新支援担当の佐藤上席農業普及員からは、草地の雑草防除や具体的な草地更新の方法が解説されました。また、中部・一関・奥州農業改良普及センターからは、稲WCS専用品種の「つきはやか」やライムギとスーダンの二毛作などの実証結果の報告が行われ、会場からは、「暑さに強い寒地型牧草」「ワルナスビの防除方法」等について活発な意見交換が行われました。

研修会の内容や稲WCS、ライムギ、暖地型牧草(スーダン)の栽培方法などについて、普及センターに御気軽にお問合せください。



胆江地方ニューファーマー募集!



胆江地方の**主要品目(ピーマン、きゅうり、トマト、りんご、りんどう、水稻、肉用牛、酪農)**で、新たに**農家での研修を行う就農希望者**を募集します。

胆江地方ニューファーマーとして選考された方は、先進的な農業経営者のもとで実践的な研修を行い、**就農準備から就農後まで総合的な支援**が受けられます。ご興味のある方は、お気軽にご相談ください!

- 募集期間 令和7年10月1日(水)~11月10日(月)
- 問合せ先 地域指導課 電話 0197-35-6741



御意見番!指導士の声

農業農村農業士
かんの ちあき
菅野 千秋さん



過疎高齢化地域の自宅から買物へ街に出ると、多くの外国人実習生が自転車に乗り買い物をする光景が多くなった。

2015年、深刻な人手不足問題を視野に入れ、地元福祉事業所と農福連携に取り組んだ。

2023年6月一般社団法人を立ち上げ、多機能型就労支援施設“みのりいいで”を開所。現在20名の方が在籍している(平均年齢25歳)。

当園11haの果樹園にはなくてはならない労働力となっている。効率化ばかり求める現代社会では生きずらさが増し、精神障害疾患は年間3.6%ずつ増加傾向である。

地域の働きたい意欲に心を寄せ、四季の移り変わりを肌で感じる農業は彼等の再出発を後押しする環境だ。

先日「社長～私将来菅野農園に一般就労したい。何を頑張ったらいいい?」(20歳女性利用者)

この子達と一緒に“生まれ育った故郷の美しい農村景観”を次世代へつなげていきたい。

所長の小噺(こばなし)

気象庁(仙台管区气象台)の3か月予報(6~8月)によりますと今年の夏も気温が高くなる予報となっています。ここ数年は、真夏日の日数も増加していますので、これまで以上に熱中症への注意が必要です。

近年の農作業事故による死亡者数は、農林水産省のデータによると全国で平成25年350人、令和元年281人、令和5年236人と減少傾向にあります。一方、熱中症による死亡者数の割合は、平成25年が6.7%でしたが10年後の令和5年には15.7%と倍増しております。

また、熱中症の危険性に対する「気づき」として、環境省及び気象庁から「熱中症警戒アラート」等の情報が前日17時、当日5時に発表されますので、発表のあった日は特に注意してくださいませようお願いします。

熱中症の対策は、①作業を始める直前に身体を冷やすと効果があるといわれており、冷たい飲み物や冷やしたタオルで体温を下げることや②こまめな休憩と水分・塩分補給③ファン付きウェアやネッククーラー等の使用が有効であるとされています。

曇天が続いて作業が遅れますと、好天時に遅れを取り戻すため、無理をしたくなるところですが、高温下での長時間作業を避け、「絶対に無理をしない、頑張りすぎない」ことが熱中症予防のため大切です。



田野島所長